

令和 2 年 5 月 1 3 日

呼子市民センター

令和 2 年小友祇園祭の中止について

内容

呼子町小友地区の伝統行事「小友祇園祭」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となりました。

小友祇園祭の概要は別添『呼子町・小友祇園祭』のとおり

(参考)

以前中止となった小友祇園祭

・平成 15 年(2003 年)

山笠が大雨と突風のため民家に傾倒したため、翌日の巡行が中止となった。

(本件の問い合わせ先)

呼子市民センター産業・教育課

担当:新、山口

電話:直通 53-7165(内線 5612)

よぶこちょう・こどもぎおんさい

『呼子町・小友祇園祭』

佐賀県の西北、東松浦半島の最北端に位置する呼子町は、古くから海上交通の要衝として発展し、大陸との窓口として重要な役割を果たしてきました。

この呼子町の小友地区に、全国に誇れる『小友祇園祭』があります。八坂神社の夏祭りで、毎年旧暦の6月14、15日の両日（令和2年は、8月3日、4日）に催されるこの祭りは、祇園山笠を担いだ海の男たちが海中を練り廻ることから『海を渡る山笠』として有名です。

この祭りは、京都の祇園祭と同じように疫神、水神の加護のための御霊会が始まりで、万治元年（1658年）に流行したコレラの悪疫退散を祈願して、笠竹に御幣をつけて地区内を練り廻ったのが自然と現在のような祇園山笠になったと伝えられています。

祇園山笠は、高さが15m、重さは3トンもあり錦糸銀糸で刺繍した見送り、五色の吹流し、そして餅花などで飾りつけられてあり、絢爛豪華で誠に美しい山笠です。祭りは、午後2時頃（時間は、当日の潮汐により前後する）から八坂神社での疫病流行病除け・五穀豊穰・大漁祈願の神事のあと、揃いの法被・禪姿の若者50人が4本の大棒で担ぎあげ、鉦・太鼓の「山ばやし」と「アーサッサ、アーサッサ」のかけ声とともに、四方に張った張り縄でバランスをとりながら地区内を勇ましく担ぎ廻ったのち、午後3時（当日の潮汐により前後する）くらいから祭りのハイライトである海中へと入っていきます。海のなかに入った山笠は、海側と陸側からの張り縄に支えられ首まで浸かった若者たちにより、約30分間にわたり海中150mを練り歩き海を渡ります。初日の夕方は八坂神社本殿前に山笠を据え、一夜御露夜し、翌日は、午前3時頃から御神燈をつけ、地区内を担ぎ廻ります。午後には、前日と同様に海中を練り歩き海を渡ります。

この山笠は女人禁制のため、担ぎ手である若者たちはこの日のために約3ヶ月前から精進潔斎する習わしがあり、また、厄入りの女性の家では細長いだんごを作り、地区内の家々に配り厄払いをします。

この海を渡る小友祇園祭の風情は、『水光・呼子』の夏の風物詩となっています。